



祭りの熱気で町を元気に！

今回の未来を築く人は『水田博文さん』です。役場大造り物の制作に携わり始めて25年。大造り物制作にまつわるお話や八朔祭に込める想いをインターンで役場にきた矢部校生4名がインタビューしました。

大造り物制作の1ヶ月半

大造り物制作は例年、八朔祭の約1ヶ月半前から始まります。まず取り掛かるのが「題材の決定」です。「今年は阿蘇くまもとと空港と台湾をつなぐ定期便が増便となり、もっとアジアから観光客が来てほしいという願いを込めて、飛行機に乗ったくまモンを題材にしました」と水田さん。今年は8月に入って制作をスタート。骨組みが完成すると竹によるキャラクターの下地制作に取り掛かります。そして制作に欠かせないのが材料集め。職員が杉の葉やシュロの皮、カズラなどの自然の素材を探します。蘇陽地区の「鏡山」にはススキ取りに足を運びました。今年も雨が降る中、杉の葉取りには1日に何度も山を訪れたそうです。

再現性にこだわる大造り物

大造り物制作で水田さんが最もこだわっているのが再現性。キャラクターが題材であれば、元のイメージを壊さないように細部まで丁寧に再現することが必要です。「キャラクターの顔のパーツは、元の雰囲気を損なわないように細心の注意を払って制作しています。本当に難しい部分ですが、ここは力を入れています」と話されました。過去には子どもたちが喜ぶ大造り物として、映画『アナと雪の女王』のエルサや漫画『ワンピース』のルフィ・チョッパーを題材にした作品も手掛けました。それぞれに異なる難しさがあり、その挑戦が作品の完成度につながっていると語ります。

八朔祭への想い―“大造り物で地域に元気を”

「熊本地震の影響で大造り物制作が中止になる可能性があった年もありました。しかし、作品を造り続けることが地域活性化につながると信じています。また、子どもたちの喜ぶ姿やみなさんの感動の声が私の原動力です」

八朔祭という山都町の伝統的な祭りを支え、地域に活気を届け続ける水田さん。その大造り物には、地域への想いと未来への夢が込められています。



完成した大造り物

【矢部高生インタビュー感想】初めての取材で不安もありましたが、実際にお話を伺う中で、大造り物にかけ熱い思いを知ることができました。インタビューでは、どのように話を進めれば良いのか悩む場面もありましたが、水田さんがうまく話を引き出してくださったおかげで、とてもスムーズに進めることができました。広報という仕事を体験する機会はなかなかないため、取材を通じてその大変さや楽しさを実感できたことは、とても良い経験となりました。



高校生インタビューの様子



大造り物制作の様子

今月の表紙

今月の表紙は、八朔祭の花火大会で撮影した1枚です。1日目の夜に行われるこの花火大会では、通潤橋付近を打ち上げ場所とし、通潤橋の特別放水と花火の打ち上げが同時に行われます。

今年もその瞬間には、観客から大きな歓声が湧き上がり、会場が盛り上がりました。夜空いっぱい広がる鮮やかな花火は、祭りの初日を華やかに彩り、町内外から訪れた多くの人々を魅了しました。

臨場感あふれる花火の輝きを切り取った写真から、八朔祭の夜のひとときをぜひ感じてください。



目次

- 2 ふるさと納税指定対象団体の取消しに関して
- 5 未来を築く人
- 6 八朔祭～大造り物に込めた願い～
- 10 やまとの話題
- 14 令和6年度 決算
- 18 農業委員会だより
- 20 まちからのお知らせ
- 22 福祉だより／保健だより／やまと文化の森だより／山の都移住すまいるセンター通信／わたしたちの人権／SDGs未来都市山都町／山都ラボ通信／矢部高校だより／図書館だより／山都シニアクラブ／山都警察署・協議会だより／寄附のお礼（山都町社会福祉協議会）／編集後記
- 31 イベントカレンダー／だっこ

町公式ホームページ

阿蘇山麓のまち



最新情報は町公式ホームページをご覧ください。

町の情報発信



公式ライン



防災アプリ
「ライブビジョン」



Android用
iPhone用



公式Instagram
「#my_yamato」のハッシュタグで山都町の写真・動画を投稿してください。一緒に山都町の魅力を発信していきましょう！

人のうごき

総人口	12,556人（－27）
男	6,092人（－19）
女	6,464人（－8）
世帯	6,203戸（－14）
	※（ ）は前月比
令和7年9月 出生者	4人
死亡者	30人
最高齢	106歳〔女性1名〕 （令和7年9月30日現在）